令和元年度第４回宝塚市パブリック・コメント審議会議事録

１　開催日　　令和元年１１月１１日（月）午前１０時００分～１１時５０分

２　開催場所　特別会議室

３　出席者　　委員７名、事務局５名、傍聴人０名

４　議事　　　①平成３０年度に実施したパブリック・コメント手続きの個別評価（案件No.9～11）について

　　　　　　　②パブリック・コメント手続の運用状況評価について

○事務局　　　　　　ただ今より、令和元年度第４回宝塚市パブリック・コメント審議会を開催する。本日の出席者は委員８名中７名出席で過半数となり審議会は成立。傍聴者は０名。

○会長　　　　　　　それでは議事に入る。本日はNo.9～11について評価する。まず、１つ目の案件であるNo.９「健康たからづか２１（第２次後期計画）（案）」、各委員より評価をいただく。

○委員　　　　　　　評価「Ｃ」。細かく書いているが、内容が読み取りにくい。概要版を見ても外来語（カタカナ語）が多く、日本語に訳してもらいたい。

○会長　　　　　　　脚注に訳が書かれているものもあるが、書かれていないものでも分かりにくいものが多い、よく指摘される事項でもある。

○委員　　　　　　　評価「Ｂ」。結果の一覧が見にくかった。どちらにも意見募集時と結果公表時の本編に（案）とある。漠然としていて本編案の中でポイントがない。

○委員　　　　　　　評価「Ｃ」。大変興味深く、非常に詳しく書かれている。ただし、意見が少なく、まとめ方について、ポイントの絞り込みが感じられない。まとめ方をもう少し工夫した方が市民からの意見が多くなるのではないか。キャッチフレーズをもっとうまく使ってまとめてほしい。悪い点として、（案）としてあり、最初のページに「イラスト」とある。これは何なのか。重要な要素があるなら明記してもらいたい。結果公表時の本編イラストを入れてほしい。概要版Ｐ６の脚注に低体重（ＢＭＩが２０以下にならないように）、とあるが、本編Ｐ２８の脚注には２０ではなく１８.５と書かれている。２０は誤りではないのか。グラフ・表が多いので資料編として分けても良いのではないか。

○会長　　　　　　　ＢＭＩの数値の相違については該当部門に問い合わせをしてほしい。

○委員　　　　　　　評価「Ａ」。本編案Ｐ３の内容が入りづらい。すべてを読めば理解できるが。もう少し分かりやすくして欲しい。本計画の位置づけを明らかにすべきである。

○委員　　　　　　　評価「Ａ」。国の法律があり、県の計画があり、市としてエイジフレンドリー、「健康たからづか２１（第２次後期計画）（案）」があって、どれがどこを見たらいいのかがわからない。全体的にボリュームが多い。話し合いのメンバーの中に公募の市民がいない。意見は少なかったが反映されているので良かったのではないか。

○会長代理　　　　　評価「Ａ」。結果公表の本体が（案）のまま。概要版が本体の縮小版となっていることは問題だが、計画の位置づけはできている。

○委員　　　　　　　市にとって、特定団体を御用聞きのような利用のされ方をしている。団体名を使用など記載する場合には、市はその団体に周知するなど連携をする必要がある。この案には特定の団体が協力体制であることを勝手に載せられている。

○会長　　　　　　　何かあったらすぐ「民生委員や民生児童委員に連絡、相談、ネットワークづくり・・・」等、当事者に伝えずに記載されていることに関して、担当部局に伝えるだけではなく、全庁的に警鐘してもらいたい。

○会長　　　　　　　評価「Ｂ」。詳しすぎて読む気が起こらない。本当に市民は読めるのか。特に概要版と本編との落差が激しい。言語も専門用語が多く、専門家でないと分かりづらい。

○会長代理　　　　　公募委員に市民を入れることで、市民も内容をチェックできる。市民が入っていないということは、意見が偏る可能性がある。

○会長　　　　　　　では評価にうつる。審議会としての評価は「Ａ」とするが意見はあるか。今出されたコメントは担当部局に伝えておくようお願いする→評価「Ａ」で決定。

○会長　　　　　　　続いてNo.10「やさしいたからづか推進計画～宝塚市自殺対策計画～（案）」について、各委員から意見を伺う。

○委員　　　　　　　評価「Ｂ」。タイトル「やさしいたからづか推進計画」はこれでいいのか。これで自殺防止につながるのか。

○委員　　　　　　　評価「Ａ」。市民のパブコメの意見を素直に取り入れている。訂正することを躊躇していない。表紙に「あなたの声で」とあり、市民みんなで助け合っていくという姿勢が感じられた。ページが多く、あちこちにページを繰って読まないといけない。今までにない呼びかけるような

表現を用いている。

○委員　　　　　　　評価「Ｃ」。タイトルを見ても内容がわからなかったが、概要版の最後のページに説明はある。相談窓口が詳しく書いてあり、わかりやすい。ＳＯＳを発信しやすい環境作りが出来ていることがわかる。自殺と自死の違いについて、本編に書かれているが内容の違いがよくわからない。本編のグラフや表にタイトルや通し番号がないので、付けてほしい。No.16の意見についての回答は誰が何をどう行動すべきなのかもう少し詳しく書いてほしい。具体的方策を記載してほしい。

○委員　　　　　　　評価「Ａ」。子どもと親のバックアップができている。興味のある人は読むだろうが、そうでなければこの膨大な量を読むのかと思ったが、全体的にはよくできている。

○委員　　　　　　　評価「Ｂ」。概要版（結果公表）が何を指しているのかわからなかった。意見は反映されている。公募委員がいなかったことも気になった。相談窓口を多く載せていることも良いかと思うが、この中から選ぶのも大変ではないのか。相談機関同士の連携は取れているのか。

○会長代理　　　　　評価「Ｂ→Ａ」。概要版がわかりにくい。「案」の取り忘れである。パブコメの手続きとしては概要がきちんと書かれているし、必要な資料も示されている。結果に対しても丁寧に書かれているのでＡに変更する。

○会長　　　　　　　評価「Ｂ」。フレキシブルな行政の姿勢は素晴らしい。しかし、全体にボリュームが多く、窓口が詳しく記載しているほど一番効果的なところはどこか自分で判別しないといけない。もっと簡潔に詳しく書けるのではないか。委員が４名なのも少なすぎる。

では評価にうつる。１名がＢ→Ａに変更となったので、審議会としての評価は「Ａ」とするが意見はあるか。→評価「Ａ」で決定するが改善の余地はあり。

○会長　　　　　　　続いてNo.11「宝塚市地域福祉計画（第２期　改訂版）（案）」について、各委員から意見を伺う。

○委員　　　　　　　評価「Ｂ」。脚注が書かれていることに後から気づくことがあり、わかりにくい。また、どういう基準で脚注を付しているのか。

○委員　　　　　　　評価「Ａ」。キャッチコピーは前回と同じだが中身は改善されている。市民の意見も行政がよく動いていることを認めていて、それに対して行政も市民の意見を反映して文言を変えている。市民もよく見ているし、行政も市民の意見を反映しているところは評価したい。

○委員　　　　　　　評価「Ｃ→Ｂ」。本編の図・表に通し番号がない。意見も多く、それに対する行政の回答も真摯に受け止められている。

○委員　　　　　　　評価「Ａ」。正誤表があり、改正前後でわかりやすい。数値も明確に書かれており、よく作られている。市民の意見も、結果公表で反映されている。図を用いてきちんと説明をしている。全体的ビジョンが示されている。

○委員　　　　　　　評価「Ｃ」。とにかく文字が多く、もう少し分かりやすくしてほしい。意見を真摯に受け止める必要がある。平成29年のデータが多いなかで、平成27年のデータのグラフが混ざっている。平成27年のものが直近のデータとの回答だが、それならばそう明記しておくべきである。

○会長代理　　　　　評価「Ａ」。パブコメとしての形式的な募集要項・結果公表は良い。しかし、改定後の記載が不親切。改定した点を文章で募集要項に書いてくれたらいい。ただ、１期計画と２期計画の関係や、会議の内容など、過不足なく書かれている。概要版は入念に見ればわかりやすい。

○会長　　　　　　　評価「Ｂ」。フレキシブルに記載されている。どこの窓口を訪ねても支援できるようなメッセージを発信してほしい。全体的にわかりづらい。計画の序列をもっと市民にわかりやすくするべきではないか。上位計画が総合計画、各分野別の基本計画、基本計画を経た分野別計画がある。分野別の計画、横つなぎの計画を明確にして欲しい。そういうことを行政内部で交通整理をするべきである。

　　　　　　　　　　パブコメとしてのレベルは高いが、却って分かりにくくなっているのではないか。

では評価にうつる。→評価「Ａ」と決定する。

○会長　　　　　　　個別評価を終えたうえで、各委員より感想をいただく。

○委員　　　　　　　多くの書類が市民に送られるが、全て読み切れない。何か審議委員などにならない限り理解できないものが多い。これをＰＲする方法はないのか。審議会、評議会、委員会など名称があるが、市民から見たら何を指しているのか、また、議事録を公表してもらいたい。

○委員　　　　　　　パブコメ審議員としての役割は、施策の内容ではなくパブコメの手続きについてこだわることなのだと思う。経験していくうえで学ぶことができた。

○委員　　　　　　　最初の評価は厳しくしていたが、審議会での意見を踏まえ、上の評価に変えたものもあった。全体的に意見が少なかったのが気になるが、出てきた意見に対して、市として意見を取り入れるなど行政の取り組みは良い。なぜ市民の意見が少ないのかが課題である。計画の中で見える化できるところはしていくべきではないか。また、今は第５次総合計画につながる計画書である。第６次になったらどうなるのか。また作り変えるのかと疑問である。５次から６次で大幅に変わらないのであればそのまま当てはまるのかもしれないが。

○委員　　　　　　　各委員のパブコメの評価を見て、今後の審議の評価の仕方を改善していきたい。計画や規則などいろいろあるが、目標数値などを統一して示してもらいたい。目標とその結果を明確にすれば、評価もしやすくなるのではないか。

○会長代理　　　　　パブリック・コメントの手続きだけでは非常に良くなった。必要な(注)と必要でない(注)がある。いい加減な（注）だと市民も本編を読む気は起こらず、パブコメも出てこない。手続きとしてはよかったので、問題は市民がどう応えるか。ずっと意見が少ない。多くて１０件ほどである。財政が非常に厳しくなったら「パブコメはしなくていい」となる危険性が生じる可能性もある。

○委員　　　　　　　意見が出ないことについて、市民は自分の生活に直接関わることについては意見を出すが、あまり関わりのないものについては無関心な方が多い。意見を出しても個人情報等の関係で結果が知らされないということも多々あり、意見も出しにくくなってきているのかもしれない。

○会長　　　　　　　一昔と違って仕事が専門化してきている。市民と行政の間での情報の格差が広がってきている。市民も勉強しなければいけないが、行政が市民に対して理解を広めていけるようにしていくべきである。各部局で関心をもってくれる市民を増やす競争がはじまっている。いかにして市民に対して理解を求め、市民と一緒に活動していけるかが重要である。中位、下位計画に数値目標がないは、どうか。上位計画には数値目標があるのに。「方針」、「構想」の区別を明確にし、使用すべきである。脚注を入れる基準を明確にするべきである。

○会長　　　　　　　続いて議事（２）パブリック・コメント手続きの運用状況評価について確認する。

○事務局　　　　　　パブリック・コメントを実施しなければならない市の重要案件を審議する、都市経営会議の議題を調査したところ、平成３０年度においてパブリック・コメントを実施しなければならないにもかかわらず、実施していなかった案件は無しである。以上、報告する。

○会長　　　　　　　では、本日の評価結果と委員の皆さんのご意見を整理して、答申を作成する。答申は全体的な総括評価と１１件の個別評価で作成する。１１件それぞれの個別評価については、表形式でＡからＥ（Ｄ・Ｅは無し）の評価と評価コメントを箇条書きで表記する。

　会長と会長代理で答申案をまとめ、事前に各委員宛に郵送する。次回の審議会で各委員からのご意見をいただき、最終修正の後、市長に答申書を提出する。

　それでは事務局から今後のスケジュールの連絡をお願いする。

○事務局　　　　　　答申を市長に提出いただく日程は１２月２４日（火）午前１０時からの３０分程度を予定している。出席できる委員はできる限り出席をお願いする。

○会長　　　　　　　それでは本日の議事は終了する。次回の審議会は１１/２９（金）

午前１０時から特別会議室で開催する。

　　　　　　　　　　以上で本日の審議会を終了する。